

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2692600162		
法人名	社会福祉法人 空心福祉会		
事業所名	グループホームえるむ(バジル)		
所在地	京都府福知山市旭が丘92-2		
自己評価作成日	令和2年5月11日	評価結果市町村受理日	令和2年10月6日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/26/index.php?action_kouhou_detail_022_kani=true&jiyosyoCd=2692600162-00&ServiceCd=320&Type=search
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	一般社団法人 市民生活総合サポートセンター		
所在地	〒530-0041 大阪市北区天神橋2丁目4番17号 千代田第1ビル		
訪問調査日	令和2年6月8日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

・京都府北部で初めて認可を受け開設したグループホームとして、手探りの中で、入居者の感情豊かな、いきいきとした暮らしの支援を目指し取り組んできました。「できることは可能な限り自分で、でき難いことは協力して、できないことは代行して」を基本に、入居者の個々の力、協力し合う力、必要な支援の見極めをSTAFF間でしっかりと行うように努めています。
 ・毎日の買物、散歩、季節に応じた外出等、外出をしてホームの中だけでの生活ではなく、地域に出かけ、ともに季節を感じ、気持ちを共有できるように取り組んでいます。毎年、日帰り旅行を入居者や運営推進会議から意見を取り入れ企画し、思い出に残る旅行や、個別の思いを実現するための外出等の機会を多くもつようにはしています。生活に根ざした楽しみ、昔馴染みの仕事、季節感のある保存食作りや季節の菓子作り等に力を入れています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

当該ホームは地域との関わりを大切にしており、地蔵盆や地域のイベントに利用者と参加したり、施設の祭りでは多くの子ども達の参加を得ると共に児童館の子どもとの交流や授業の一環として小学生を受け入れダンスの披露や手遊び等と一緒に楽しみ交流を深めています。また防犯パトロールや美化活動には地域の一員として職員が参加し、地域とは新たに防災協定を結び、地域から人的支援を受けると共に地域の避難先として受け入れを決めており良好な協力関係を築いています。また散歩や買い物、季節の花見等の他、あべのハルカスや伊根湾巡り、ホテル見物等を企画し、多くの外出を楽しんでいます。毎月利用者の自治会を開き意見や思いを聞き、介護計画作成時は本人や家族の参加を得て担当者会議を開いており、家族と共に利用者を支え意向に沿った暮らしとなるよう支援しています。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「ありがとうに溢れる、地域で創めるこれからの暮らし」を施設理念とし、法人の福祉サービス方針、ホームの福祉サービス目標の中でも、地域社会の一員としての生活を支援していくことを掲げている。入居後も、地域の中へ積極的に出掛け、できる限りこれまでのその人らしい生活を支える支援を取り組んでいる。	法人の方針や施設理念を基にホームの目標を決めています。方針や理念は入職時に説明すると共にホールに掲示し、毎朝唱和しています。目標は毎月の会議で進捗状況を確認すると共に中間評価や年度末には全職員が行う評価も踏まえて総評を行い、次年度の目標へと繋げています。目標を柱とし地蔵盆への参加など地域交流の機会を持ちながら実践に取り組んでいます。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域とのつながりは十分とは言えないが、近隣の児童センターとの交流やSTAFFのボランティア活動として、地域の防犯パトロールへの参加、美化作業を行い、地域貢献を行っている。20.2.3に地域との防災協定を結び、有事の際の対応を確認した。	地域の防災を目的とした訓練や運動会などに利用者と参加し車いすの使い方を説明したり、防犯パトロールや美化活動には地域の一員として職員が参加しています。また施設の祭りではダンスや高校生のボランティアを受け入れ地域の多くの子ども達の参加を得たり、児童館の子ども達との交流や授業の一環として小学生を受け入れ歌やダンスの披露、手遊びなどを利用者と一緒に楽しみ交流を深めています。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議において、高齢者の暮らしの実態、施設に求める事など、様々な意見を聞き、話合うようにしている。また、コミュニティーホールの貸出を行うことで、交流の場を提供している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2か月に1回実施し、福祉サービス目標の進捗状況(取り組み内容、行事、事故、外出)、現況を報告し、意見交換の機会を持っている。また、時季に応じた勉強会を実施し、資料を持ち帰って頂いている。	会議は家族代表や自治会長、市職員や地域包括支援センター職員等の参加を得て開催し、ホームの状況や行事、事故については対策を含めて報告し意見交換しています。毎回防災や介護保険等テーマを決めて勉強会を行っており工夫しながら開催しています。意見を受けてトレーニングできるよう歩行階段の設置や災害時の協力関係について話し合う等有意義な会議となっています。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議の参加者に市担当者、地域包括支援センターから1名ずつ参加して頂き、事業所の取り組み状況を報告し、様々な意見を聞くことができています。	市職員は運営推進会議に参加を得ており、会議の案内文は直接窓口に届けています。わからない事は出向いた際や電話で気軽に相談したり、福祉フェスタや市内の施設が集まる会議や研修など出会う機会も多く協力関係を築くよう努めています。また介護相談員を受け入れています。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	研修等を通じ、身体拘束について理解を深めている。身体拘束0を継続して取り組むことができている。また、エレベーターにも暗証番号は設定しておらず、入居者も自由に使用することができる。	身体拘束に関する法人研修の受講や年に2回ホームでも研修を行い職員に周知すると共に毎月行う危機管理委員会の中でも身体拘束について話し合っています。施設玄関は施錠していますがエレベーターや施設内は自由に移動ができ、利用者の外に出たい思いを大切にしており職員が付き添って出かけています。言葉による制止などが見られた場合は互いに注意をしています。	

グループホームえるむ(バジル)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	法人内や部所の研修を通し、人権や虐待について学ぶ機会を持ち、虐待防止の徹底に努めている。内出血等についても原因を究明し、入居者の言動等、小さな情報もSTAFF間で共有したり、言葉遣い(言い回しや言動等も含め)の見直しを職員間で取り組む等、常に虐待や人権侵害がないように日頃より注意を払っている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	外部の研修において学ぶ機会を得ている。そこでの資料をファイルに綴り、閲覧できるようにしている。法人人材育成委員会主催の新入STAFF研修においても、権利擁護をテーマに取り上げ、教育を行っている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約書、重要事項説明書の説明はもちろん、入居者、家族等の入居への思い、不安、希望等、十分に話を聞き対応するようにしている。入居後も、利用料金等への詳細の問い合わせ等にも適切に対応している。退居時も入居時と同じく、十分に話し合いをもち、不安なく次の生活に移ることができるように努めている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族よりSTAFFへ直接意見を言って頂けるような関係作り、介護相談員の受け入れ、外部機関の説明等行っている。また、入居者家族へ満足度調査を実施し、頂いた意見については家族への返答を行っている。また、定期的にご意見用紙を送付し、意見を頂ける機会作りを行っている。	利用者の希望は日々の関わりの中や毎月開いている自治会、介護相談員の受け入れ等で聴き、好みの献立や外出行事などに反映しています。また家族とは話しやすい関係作りに努め、面会時や運営推進会議、年に1度の満足度調査等で意見を聴いています。掃除に関する意見では掃除道具の工夫や回数を増やしたり、運動器具の設置などを実現し、取り組みについては家族への郵送と共にホーム内に掲示しています。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月に一度、代表者会議、STAFF会議を行っている。その中で、STAFFからの意見や起案を検討し、実施できるようにしている。また、問題点や伝達すべきことも話し合っている。	職員の意見や提案は代表者会議やスタッフ会議、日々の業務の中などで聴いたり、施設として面談に取り組んでおり、年に1度の施設長面談や年3回の管理者による定期面談の他、職員の様子を見て随時声をかけ話を聞いています。職員からは細かな内容を含めて多くの意見が出されており、施設マニフェストの申請期限の延長や介護記録ソフトを導入し業務改善に繋げるなど、意見を反映した取り組みに繋げています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	STAFFが向上心を持って働くことができるよう、キャリアパスやSDSシステム等を導入している。ケアコラボ(電子記録システム)を導入し、記録に関わる業務の軽減につながっている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	新入STAFF研修、OJT、法人人材育成委員会主催の全体研修、部所内における研修、法人内での研修発表の機会、外部研修への派遣を行い、人材育成に力を入れている。新型コロナウイルスの影響で延期になっているが、技能実習生の受け入れを予定している。		

グループホームえるむ(バジル)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	府内のグループホームで組織する連絡会主催の勉強会や交換研修にSTAFFを派遣している。他のホームからの研修、見学も受け入れ、他のホームで行われている支援等に触れる機会を持つようにしている。		
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居事前調査、入居事前面接、契約時等から、本人や家族のニーズ、不安等を聞き取れるよう、関係を築くことに努めている。入居当初も不安や悩みを聞き、特にケース担当を中心として信頼関係を築けるよう努力している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居事前調査、入居事前面接、契約時等から、家族の不安、利用に至るまでの経過、希望等を聞き取れるよう関係を築くことに努めている。場合によっては、入居までも家族の不安や相談に乗り、こまめに電話などで連絡を取り合うなど、家族の心身状況等への配慮も心掛けている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	当施設への入居だけに拘らず、現在の生活、今必要としていること、本人、家族の思いに適したサービス等を含め、可能性を広げられるよう、随時、傾聴、助言をするように努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	介護を受け、施設で穏やかにのんびりと過ごして頂くというのではなく、他の入居者やSTAFFと喜怒哀楽いっぱい力を発揮し、支え合える暮らしを目指している。保存食作りなど、馴染みのある作業を通じ、STAFFが教わる機会も多く持っている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族の思いに心を傾けながら、家族もサービス提供者の一員として共に支えることができるよう、常に情報を共有できるよう努めている。施設の広報誌等を通じ、生き生きとした暮らしの様子を伝え感じて頂くことで、家族も一緒に支援して頂けるように努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	本人が大切にしている人、もの、場所等の把握に努め、可能な限りその人らしく暮らし続けられるよう支援に努めている。馴染みの習慣の継続、自宅への外泊の支援等も実施している。	友人や親せき、元仕事の関係者等の面会があり、居室やリビング等の希望を聞きながらゆっくり過ごせるよう配慮をしています。職員が付き添い定期的に他施設へ入所している家族に会いに行ったり、毎月の習慣だった神社への参拝、よく行っていたスーパーや喫茶店等思い通りに沿って出かけています。また家族と墓参りや法事、親戚の集まり、美容院等に行く方もおり、家族の協力も得ながら馴染みの関係を大切に支援に繋げています。	

グループホームえるむ(バジル)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	毎日の暮らしの中で、STAFFとの関係だけでなく、入居者同士の関係を理解し、共同生活を支援できるように努めている。入居者に声を掛けてもらう、一緒に何か作業をして頂く等を心掛けている。また、食事席等も利用者の関係を考慮しながら配席している。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	グループホームでの生活が困難となった入居者が契約終了となり、併設の特養入居となっても、訪問しあったり、行事等では特養との交流もあり、関係性を築くことができている。		
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	一人ひとりの思いに寄り添い、困難な場合でもその方にとってどうか、どうされたいと思われるだろうかと考え、入居者本意に対応できるようユニット毎に検討している。日頃からの思いの傾聴に努めている。	入居に向けての面談時に本人や家族の希望、これまでの生活歴や趣味などを聞き、関わりのあった事業所からも情報をもらい意向の把握に繋がっています。日々の中では利用者の思いに傾聴し、毎月開いている利用者の自治会は思いを知る機会となっており、把握が困難な場合にも関わりの中で得た情報をユニットミーティングの中で本人本位に検討し職員間で共有しています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居事前面接等だけでなく、入居後も本人、家族から聴き取り、また、「私の姿と気持ちシート」を作成する等、日々の中での把握、情報の共有に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	事前情報だけでなく、日々の中で理解し、見極めるように努めている。日々の様子などは記録にも残していくようにしている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人、家族からの意見を聞き、ケース担当、ケアマネジャー、他STAFFの意見等を踏まえ検討し、介護計画を作成している。	介護計画作成時は本人や家族の参加を得てサービス担当者会議を開き共に必要な支援を話し合い作成しています。日々計画の実施状況をパソコンに入力し10日毎に担当者が記録や他の職員の意見を確認しながらモニタリングを行い、3~4ヶ月毎に評価し見直しています。アセスメントは変化があった内容を追記しながら現状が分かるようにしています。また必要に応じて診療情報提供書の内容を計画に反映させています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の記録、介護計画のモニタリングを個別に記録し、情報共有を行い、日々のケアにいかせるようにしている。家族とのやりとりについては、相談記録に記入し残している。		

グループホームえるむ(バジル)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	状況、要望に応じ柔軟に対応するように努めている。面会時間、外出、外泊等の支援、馴染みの理美容の利用等を継続して頂いている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	意向や必要性に応じ、地域資源の活用をしている。サロンなども活用し入居者が利用できるよう支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居時または必要時、本人及び家族の希望医療機関を利用できるよう支援している。必要であれば施設から連絡し、Drに相談や指示を仰げるように連携が取れている。	利用者は全員がかかりつけ医を継続し、其々のかかりつけ医を個々の間隔で家族と受診し、場合によっては往診を受ける方もおり、情報のやり取りは口頭で行っています。専門医を含めて受診については家族が対応し、緊急時などは職員が付き添う事もあります。また利用者の体調不良時などは併設施設の看護師に相談しながら受診や救急搬送をしています。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	同一建物内に特養があり、NSと相談をしながら日常の健康管理を行い、適切に医療を受けられるよう連携しながら支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	Dr、NSからの情報、地域相談室等の職員と連絡を取り、早期退院に向け連携を図るよう努めている。また、入院中にお見舞いへ行き、担当者より状態確認も行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	状態に応じ、早い段階から意向、希望、施設としての対応、医師の判断等確認し、本人、家族と相談していくことを心掛けている。施設として対応ができる可能性、限界についてはしっかりと見極め、支援に向けて取り組んでいる。可能な限り、また、本人、家族の意向に添えるよう対応している。	入居時に終末期に関するホームの方針を説明しています。重度化に合わせてかかりつけ医から家族に説明が行われ、ホームでも家族の意向を大切に話し合っています。看取り支援を希望の場合はかかりつけ医と連携を図り、家族は面会を増やしたり好きな物を持参するなどの協力を得ると共に状態が変化する毎に本人や家族の意向を確認しながら可能な限り支援をしています。職員は定期的に看取り研修を受けています。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	定期的な応急手当の訓練は行っていないが、「緊急時対応マニュアル」を作成し、緊急時の対応に備えている。また、普通救命講習に全員修了できるよう派遣している。		

グループホームえるむ(バジル)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	2回/年の避難訓練を行い、災害時に対応できるよう取り組んでいる。また、水、食料等の非常食をホーム内に備蓄している。消防署との連携に努めている。	年に2回施設全体で昼夜を想定し通報や初期消火、避難誘導、散水栓を用いた訓練などを行い、1度は消防署の立ち会いを得ています。訓練には毎回複数の自治会関係者の参加が得られ、地域とは防災協定を結び、人的協力の依頼や地域の方の受け入れを決めています。地域の訓練や防犯パトロールには職員が参加し、3日分の非常食やラジオなどの備品を準備しています。	
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入居者とSTAFFの関係をしっかりと築き、一人ひとりに応じた丁寧な対応や言葉掛けを心掛け、記録類の取り扱いにも注意を払っている。言葉掛け、態度等不適切なものがあれば、STAFF間で注意し合える雰囲気作りを行っている。	入職時にマナー規範の説明の中で接遇マナーやプライバシーについても説明し、接遇に関する法人研修は全員が出席できるよう3～4日に分けて実施しています。丁寧語を基本に個々の利用者に合わせて言葉かけや対応を心がけ、呼称については入居時に希望を確認しています。入浴や排泄介助について同性介助の希望がある場合はできる限り意向に沿うよう努めています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	入居者の理解力を把握し、個々に応じて声掛けや希望の聴き取りを日頃から行っている。場面に応じた自己決定や、できるだけ納得ができるよう支援し、自分らしく暮らせるよう努めている。1回/月の自治会を開催している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	業務、STAFF都合優先ではなく、入居者のその日、その時の思いを大切にしながら暮らしを支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	毎日の身だしなみ、外出、行事等の際のおしゃれは、その人らしさ、清潔感を大切に支援している。また、理美容は本人、家族の希望を聴き取り、希望の店を利用できるように対応している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	同一建物内にある特養の管理栄養士が作成した献立を基にしながら、好みや季節に合った食材に配慮し柔軟に対応している。調理等食事の準備、片付けを共にしている。	季節行事を反映した施設献立を基に、主菜は厨房から届きご飯や汁物、小鉢等を利用者と一緒作り職員も共に食事を摂っています。月に1度は利用者が小鉢や汁物を作る日を設け遣り甲斐に繋げたり、毎月寿司の日や月2回セレクトメニューを設けています。また希望を聞き外食や喫茶に出かけたり、羊かんやわらび餅等のおやつやジャム作り、育てた野菜で漬物を漬ける等食べる事を楽しめるよう支援をしています。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	同一建物内にある特養の管理栄養士が作成した献立を基にし、量、栄養のバランスを確保している。一人ひとりの摂取状態、好みに応じ介助等行っている。補食としてのおやつ等も個別に対応している。		

グループホームえるむ(バジル)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎日の義歯洗浄剤の使用、食後の歯磨き等、入居者個々の状態や力に応じ支援をしている。口腔衛生についての研修を受けるなど知識の習得、資料の共有などしている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個別の排泄パターン、使用しやすいトイレ、適した排泄用品、介助の仕方等情報を共有、検討し、個別に応じた支援をしている。	記録から個々の排泄パターンを把握したり、排泄のサインなどを見ながらトイレへの声掛けや誘導を行っています。排泄支援には力を入れており、布の下着の方も多く日中は全員がトイレで排泄できるよう支援し、夜間はポータブルトイレやパット交換などユニット会議で一人ひとりに合った支援や用品を検討しています。またおむつを使用して退院となった場合にも早期に入院前の状態に戻れるよう支援しています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘の原因、影響について理解し、水分・食事摂取、運動等を支援している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	希望やタイミング等は可能な限り一人ひとりに応じて対応できるよう努めているが、体制上入浴の時間は限られてしまっている。一人ひとりゆったりと入浴を楽しんで頂けるよう個別の状態に応じた介助、好みの湯温調節等を行っている。	入浴は週に2回以上入れるよう日中の時間帯に支援し、希望に添って回数を増やしたり、夜間の入浴にも対応しています。柚子湯をしたり、好みのシャンプーなどを使用する方もおり個々のペースでゆっくり入浴できるよう支援し、拒否が見られる場合は時間を変えたり職員の交代、翌日にするなど無理のないよう柔軟に対応しています。重度の方には併設施設の機械浴を利用することもできます。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	午睡や就寝時間、就寝前の習慣等、一人ひとりの生活や状況に応じ支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	疾病、処方薬、注意点について理解し、入居者の力に応じ服薬を支援している。随時処方薬については特に服薬中の変化に注意し、必要に応じDr. 家族に相談している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人ひとりの力を活かし、生活に根ざした役割を持って頂けるような支援(家事作業・手芸等)、趣味を楽しめる環境作り、外出等の支援を行っている。		

グループホームえるむ(バジル)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	季節を感じ、気分転換を図ることができるよう散歩、毎日の買物、季節に応じた外出(花見、ホテル狩り、月見、初詣等)等、希望やその日の天候に応じ支援している。	日々の散歩や買い物に行ったり、屋上やベランダでは利用者と一緒に野菜を育てたり外気浴をしています。年間を通して初詣に始まり、季節毎の花見や紅葉狩り、蛍を見に行ったり、あべのハルカスや伊根湾巡りなど、遠方を含めて外出を楽しんでいます。また誕生日には利用者が行きたい場所を聞き付き添って出かけるなど多くの外出の機会を持てるよう取り組んでいます。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	入居時、希望や能力に応じて持って頂けるよう支援することを説明し、本人、家族と相談しお金を管理されるかどうか確認し同意を得ている。持たれない場合も、個別の買物は本人に可能な限り行って頂き、支払いをしていけるよう支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	必要に応じて、電話や手紙を利用して頂いたり、働きかける等支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	清潔感を大切にし、安心して快適に過ごしたり使用できるようにしている。季節の花を飾ったり、時には入居者や家族が作られたものを飾る等工夫している。	共用空間は利用者と折り紙など季節の作品を作成して飾り、頂き物の花を生けたり、正月や雛飾りを行い季節がわかるよう配慮をしています。リビングにはソファを置き、離れた場所にもソファや椅子を置いたり、利用者の関係を見ながらテーブルを増やしており、居場所を選び居心地よく過ごせるよう配慮をしています。日々の換気やハウスキーパーによる掃除の他、利用者と一緒に掃除を行い清潔な環境を整えています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	入居者の状態、関係等配慮しながら、常にホーム内の見直しを行いながら、入居者が居心地よく居られるよう配慮している。共用空間の中にいくつか居場所を作り、1カ所に集まらなくても過ごせるようにしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人、家族と相談しながら居室の環境を作っている。使い慣れた馴染みの物、本人の作品、家族の写真等を持ってきて頂き、居心地が良いように工夫している。	入居時に使い慣れた物を持ってきてもらうよう伝え、利用者は自宅から筆筒や寝具類、テレビ等を持参し家族と相談しながら本人が過ごししやすいよう配置をしています。また趣味の本やぬいぐるみ、家族のアルバムや孫の写真等の他、観音様等の大切な物を身近に置く方もおり、安心できる居室となるよう配慮をしています。エアコンを用いて温湿度を管理し過ごしやすい環境を整えています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ゆったりと安全に暮せるスペースの確保をしている。可能な限り自立した生活が送れるよう使い易い配置等工夫、配慮をしている。		